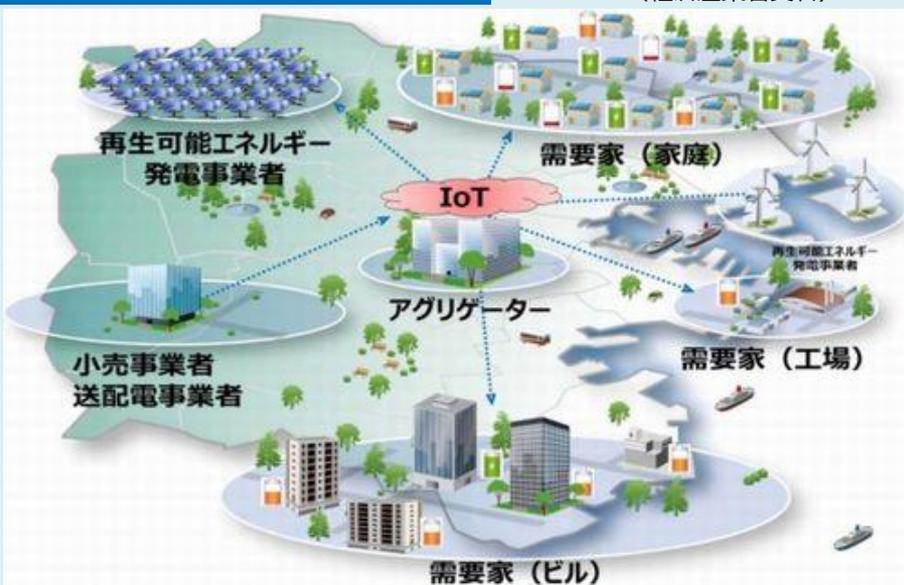


事業目的

太陽光発電 + HEMS + 蓄電池等を設置している住宅(スマートハウス) を活用し、外部から統合制御することで、あたかも一つの発電所（仮想発電所VPP）のように機能させる実証事業を実施する。

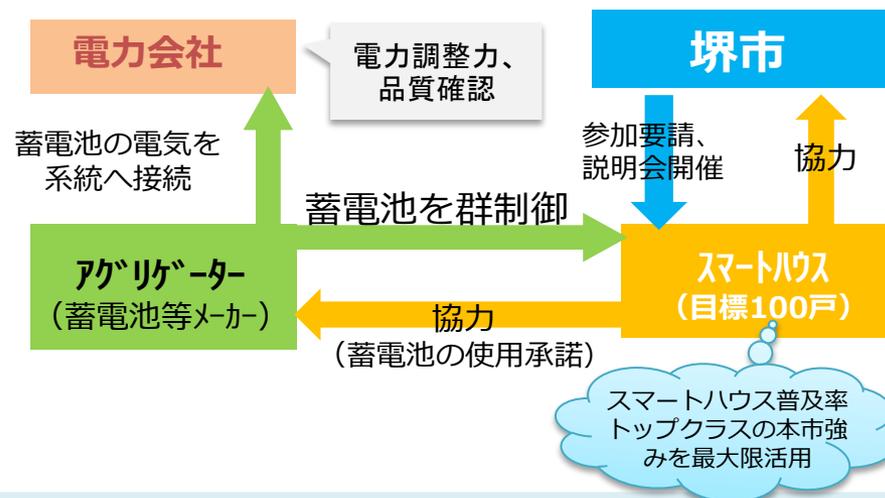
VPP事業展開のイメージ

(経済産業省資料)



- 家庭や事業所の太陽光発電、蓄電池、燃料電池等の発電量・蓄電量・消費量のデータを電力センサーとインターネットを活用したIoT（Internet of Things：モノのインターネット）の技術で収集・管理して需給バランスを最適化。（アグリゲーションビジネスとして普及）
- これにより、電力会社から一方的に送られていた電気を家庭⇄電力会社、家庭⇄事業所等、電気の対面通行が実現。
- 国では「バーチャルパワープラント」に係る制御技術の技術実証を平成28年度から平成32年度まで実施する予定。

事業スキーム



効果

- 家庭の蓄電池等を電力システムの安定化へ活用することにより、
 - 安全なエネルギー社会の推進
 - 再生可能エネルギーの更なる普及拡大
 - 将来の太陽光発電の系統への接続拒否問題の回避等
- エネルギーの地産地消